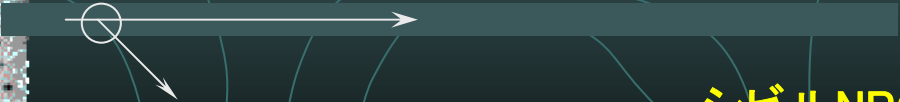


「温故創新の会」のご紹介



シビルNPO連絡会議
平成24年4月24日

事務局長 大野 博久

会の概要

■実態

- 設立年月日 : 2007年1月31日
- 認証機関 : 東京都
- 会員数 : 14人(初期会員24人、設立総会参加者34名)

■設立の動機

当時は、団塊の世代の一斉退職に伴い発生する問題(2007年問題)、とりわけ技術の空洞化が騒がれ、製造業を中心に、つぎのような対策で問題を回避しようとしていた。

- ・雇用期間の延長
- ・他企業等の退職者の獲得
- ・社内での技能伝承の制度化
- ・技能者枠での新卒採用拡大

創設者(清野茂次)は、この国家的な問題の影響を危惧し、建設コンサルタント業界において責任ある立場にあったことから、社会基盤整備分野における技術の継承面で、社会に貢献できる事業を核とするNPOの設立を決意した。

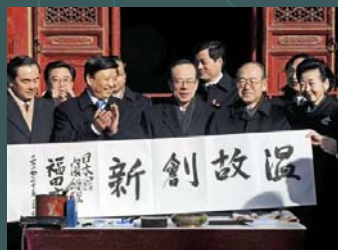
目的と名称の由来

■会の目的

本会は、主に社会基盤(インフラ)整備分野を中心に、業務の第一線を退いた技術者が中核となって、自ら保有する知識、技術、ノウハウを、次世代に継承・助言・普及する事業を通じて、人づくり、まちづくり、環境保全、国際協力、科学技術の振興等に寄与することを目的としている。

■会の名称

団塊世代以前の技術者(旧世代)は、全体計画を把握し、各工程を一つづつ手仕事で処理しながら経験を重ね、それを知識・知恵、技術・ノウハウなどに変えてきた。一方、最近の技術者(新世代)は、充実したソフトウェアとコンピュータ技術を駆使して、迅速に結果を得ることを業務遂行の基本としている。この考えから、故き(旧世代の技術)を温め、新しき(新世代の技術)を創りだすことを使命とする名称を模索し、温故創新の会と命名した。



2007年12月30日、福田首相は4日間の中国訪問を終えるにあたり、孔子の故郷、山東省曲阜を訪れ、長年の夢をかなえた。同首相は見学の感想として「温故創新」と揮毫した。「温故創新」には、「歴史を鑑とし、未来に目を向ける」という意味が含まれている。

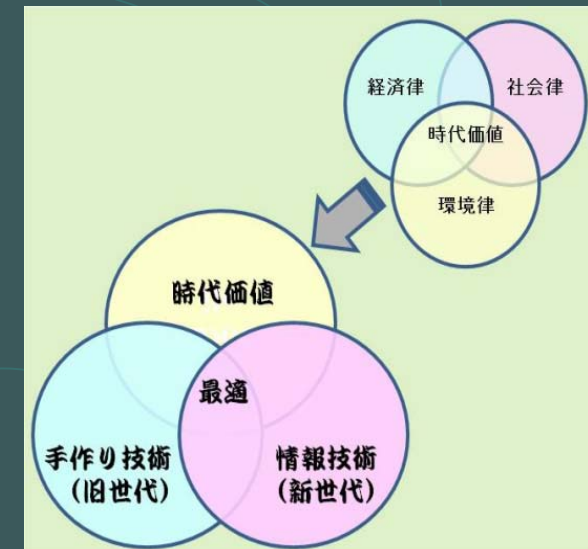
会の理念と構想

■理念

- 旧世代が蓄えた技術が新世代の技術者に確実に継承され、人材が適正に育つ仕組みづくりに貢献する。
- 「ヒト」「モノ」「コト」の三位一体的な連携を重視した活動を展開し、旧世代の培った技術を新世代のもつ優れた素質に刷り込む。

■構想

- 「教育」「文化」「福祉」など国が抱える諸課題の解決も常に視野に入れて安全・安心で、健康、福祉の向上が期待できる社会を構築する。
- 「経済」「社会」「環境」の3つの側面において価値の向上が見込める提案を、新旧世代が一体となって追求することで温故創新を実現する。
- 建設以外のNPO組織等との連携も深め、より価値のある活動が可能な運営形態を指向する。



専門部会とサービスの内容

1. 河川／下水道部会

- ・集中豪雨の影響と対応法
- ・河川伝統工法

2. 道路部会

- ・道路事業化に向けた最適路線の選定のための道路設計

3. 鉄道部会

- ・リニアメトロ発展の鍵
- ・踏切事故の回避方法 — 立体交差工事の早業 —
- ・古い鉄道橋 特に鉄ゲタの強度(耐力)照査

4. 土質及び基礎部会

- ・土質に着目した宅地造成設計のポイント
- ・地盤調査資料の活用法

5. 橋梁・構造部会

- ・複合構造及びプレキャスト構造技術の紹介

6. トンネル・地下空間部会

- ・トンネル技術に関わる知見及び情報の提供

7. 品質／プロフェッション部会

- ・技術者倫理、設計論、コンサルタント論、経営論、育成論等
- ・設計ミス防止とマネジメント
- ・設計の信頼性 — デザイン・レビューの適用 —

会の事業

■事業

◆技術継承事業

- ・技術に関する相談、助言・指導
- ・技術の継承に関連する助言・指導



◆技術普及事業

- ・産学官による技術の研究開発
- ・技術セミナーの開催



◆指導育成事業

- ・能力開発に関わる個別指導
- ・人間力、技術力等の資質向上指導

◆技術協力事業

- ・各種類似団体との技術交流
- ・海外への技術協力・技術支援

■実績

- ・技術士受験の指導
- ・中堅技術者の育成指導討議
- ・「パッテンライ！！～南の島の水ものがたり」の上映と解説
- ・トンネル技術の講義
- ・トンネル・地下空間利用の出前講座

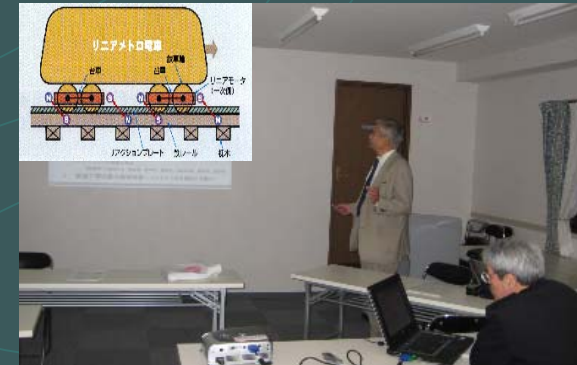
勉強会①(講演会)

①演題 : 「武士道と技術者倫理」(2007年5月31日)

講師 : 清野茂次

②演題 : 「リニアメトロ電車の話」(2008年6月2日)

講師 : 安藤正博



③演題 : 「航空レーザーで取得した三次元地形モデル情報活用」
(2009年6月3日)

講師 : 大塚正幸

④上映会 : 「パッテンライ！！～南の島の水ものがたり」(2010年
6月14日) 台湾・嘉南平野で大規模な灌漑施設の整備
に尽力した日本人土木技師八田興一のヒューマンなアニメ
映画(虫プロダクション制作)

解説 須山富直



勉強会②(提供サービスの相互紹介)

①「河川情報の収集・整理法」

- ・現場情報の必要性
- ・聞き込み調査・資料収集
- ・調査準備
- ・現場写真の撮り方
- ・現場の観察と記録
- ・現場調査報告

②「膨張性地山掘削の予知と対策と事例収集」および「公表文献に基づく難工事地山と地質・地質構造との関連に関する分布調査」

③「設計の信頼性について」(設計審査(デザイン・レビュー)の適用)

④トンネル施工に関して若い技術者へ継承したい古典技術

- ・NATMの理念の再認識
- ・膨張性地山掘削の予知と対策と事例収集
- ・公表文献に基づく難工事地山と地質・地質構造との関連に関する分布調査

⑤「技術提案文書作成情報の伝達・継承」

- ・提案文書作成の目的
- ・技術の研究開発
- ・技術セミナーの開催
- ・一般市民との技術コミュニケーション

⑥「土木の温故創新」 “サステイナ―”と呼ばれたい人類の為、国の為

勉強会③(話題提供・討議)

- ①話題 : 「土木設計技士」及び「技術伝承士」(2009年10月28日)
- ・建設コンサルタント設計組合に「土木設計技士」制度の誕生
 - ・「技術伝承士」としての「土木設計技士」の意義
- ②話題 : 「公共事業の復権」(2011年6月15日)
- ・公共事業・善玉論
 - ・公共事業・必要論
 - ・日本経済のバランスシート
 - ・国土再生の機会
- ③話題 : 『新製品の研究開発を成功させる経験則』(2011年11月9日)
- ーリニアメトロ電車の研究開発事例を通してー
- ・リニアメトロ電車の現況
 - ・リニアメトロ電車の研究開発史
 - ・リニアメトロ電車の研究開発が成功した理由
- ④話題 ; 『踏切事故は何故なくなるらないか』(2012年2月8日)
- ・深刻な踏切問題
 - ・踏切の歴史的変遷
 - ・踏切対策の取り組み方への問題点

抱える悩み

◆お客様に係わる事項

- ・当会が提供できるサービスへの要望がどの程度あるか、お客様がどこにいるか正確につかめない。
- ・悩みを持たれている技術者へ接近(営業)する手段を持たない。
- ・公共事業関連予算の漸減、建設から維持管理への事業内容の変化、プロポーザル方式の拡大などが進む中で、経営者が社員に要求する能力が多様化・高度化している。
- ・中堅・若手社員は必要な能力をいかに身につけるか解らなくなっている。企業側はOJTで社員を育成する仕組みを築けない。

◆当会に係わる事項

- ・ボランティア的な側面が強いため、第一線で活躍している経営者、技術者の参画を得ることが難しい。会員が高齢化し、新陳代謝が図れない。
- ・現在の技術水準、関連法、手法、などの最新情報を得る手段を持ちえていない。
- ・営業等に掛けられる資金に「乏しい」。

Q & A

当会では、一般事項及び技術問題のQ&Aを策定している。Qの例を以下に示す。

Q: 私は、まさら地盤調査の初歩的なことは聞けないような中堅技術者です。ご指導いただけますか。

Q: 降雨強度が増し、降雨継続時間が長くなるなどによる河川への影響がどのようなものか、特に災害との関係について教えてください。

Q: 当自治体でも橋の点検や補修を行わなければならないが、若手の指導に手が回らず、予算も少ないのが実態です。特定の建設コンサルタントとの関係に繋がらないことも考慮し、貴法人に若手の指導をお願いできますか？

Q: ISO9001システムを数年前に導入したが、掛かるコストに比べて成果品質も上がらず手間と費用に見合うメリットが感じられません。このシステムは面倒なだけで企業経営上役に立っていない。ISOをやめようと思うがいかがでしょうか。

Q: 信頼性活動のための社内組織のあり方について教えてください。

Q: 最近、技術部門から経営企画部門に移り、会社経営の基盤整備を進めています。公共事業の質と量が激変する時代にあって中長期経営計画をどのように策定したら良いのでしょうか？